

能

融

十三段之舞

第四回

龍門之會

金剛龍謹能の会

平成27年3月8日(日) 午後1時始 午後12時30分開場

於 金剛能楽堂

〒602-0912

京都市上京区烏丸通中立売上ル

075-441-7222

会員券 5000円 一般券 5500円 学生券 3000円

第四回 龍門之会

仕舞

難波

二人静

弱法師

萩大名

任言

今井克紀
廣田泰純
豊嶋見嗣
豊嶋幸洋

地謡

山田夏樹
廣田幸純
種田幸一
宇高竜成

島田洋海
松本 薫

後見 鈴木 実

休憩

仕舞

殺生石

金剛永謹

地謡

徳明貞助
豊嶋見嗣
宇高運成
宇高徳成

融

十三段之舞

金剛龍謹
福王和幸

河村 大
吉阪一郎

前川光長
杉 市和

後見 金剛永謹
廣田幸純
宇高竜成

地謡

宇高徳成
今井克紀
豊嶋幸洋
豊嶋見嗣
種田道一
廣田泰純
宇高運成
松野恭憲
横田道一

附祝言

主催 龍門之会

後援 金剛能楽堂財団

融

あらすじ

龍「融」は醍醐天皇の皇子である左大臣源融の邸宅、六条河原の院が舞台である。融は当時和歌の題材として有名であった陸奥の塩灘の名勝を好み、自身の六条の邸宅にそっくりこの名勝を模造したといわれる。鹽灘より毎月三十石もの海水を取り寄せ塩を焼き、居ながらにして塩灘の景を楽しんだ大風流人であった。融の死後、荒れ果てたこの河原の院を無僧が訪れるところからこの融は始まる。旅僧の前に田子という道具を肩に担った沙浪の老人が現れる。沙浪とは塩を製するために海水を陸へ汲み上げる海岸の住人による仕事である。海辺でもないのにと訝しむ僧に対し、老人は塩灘の景を模した六条河原の院の調れを語って聞かせる。折から月が上って、辺りの名所教名などしているうち、老人は思いついたように沙を汲み姿は消え失せる。僧が旅装をしていると、融の大臣が昔の傘やかな傘で現れ、昔を偲んで月下に様々な遊舞を奏するが、夜も明け方になると月の都へと帰って行く。



金剛龍謹

後見 金剛永謹
公益財団法人金剛能楽堂財団 評議員

略歴

昭和六十七年、二十六世正宗金剛永謹の長男として京都に生まれる。
幼少より父・金剛永謹・祖父・金剛龍仁師事。
五歳「仕舞」舞臺にて初舞台、十歳「融」初シテを勤める。
平成二十二年三月、同志社大学文学部卒業。
平成二十二年四月、金剛能楽堂インポートオーガニズに参加。

主な舞台

「三橋」(第一「融」)「運成寺」(毎月不定期)。

第四回 金剛能楽堂の会 龍門之会 FAXお申し込み書

FAX番号 075-451-1008

お名前

お電話・FAX

ご住所 〒

□会員券(1口5,000円) _____ 枚 □一般券(5,500円) _____ 枚 □学生券(3,000円) _____ 枚

(お申込み後、観能券を郵送させていただきます。お問い合わせは金剛能楽堂まで)